



## 企画にあたって

三井田 孝

(順天堂大学大学院医学研究科 臨床病態検査医学教授)

臨床検査は生化学検査や血液学検査のように検体を対象にするものから、生理検査のように人体由来の試料や人体そのものを対象にするものまで多くの種類があります。検査の目的も、検診や人間ドックのような疾患のスクリーニングから、疾患の鑑別診断や薬物濃度のモニタリング、治療薬の感受性や治療効果判定まで多岐にわたります。臨床検査を十分に活用するためには、検査を行うタイミングが適切であるのはもちろん、検査結果に影響を及ぼす因子の知識も要求されます。臨床検査の測定原理を知ることは、予想外の結果が得られた場合に原因の究明に役立ちます。また、診療録の電子化に伴い、検査結果は電子カルテで直接閲覧することができるようになりました。今後は、検査で得られるビッグデータを全国規模で集めて活用する時代になると予想されます。

本企画では、生化学検査・血液学検査から生理検査まで、循環器疾患の診療にかかわる幅広い臨床検査の話題を取り上げました。「診る」のセクションでは、循環器疾患の患者で見逃されやすい検査前誤差についてまとめたあと、失神や潜在性心房細動の診断に威力を発揮する植込み型心電図の実際、虚血性心疾患を高率に発症する家族性高コレステロール血症の遺伝子診断の現状、高齢者の大動脈弁狭窄症の増加に伴い今後重要性が増すと考えられる Heyde 症候群、心不全患者の臨床で欠かせないBNPのピットフォールについて解説していただきました。「識る」のセクションでは、多施設の検査データを活用するために有効な検査コードの標準化、疾患マーカーとしての生理活性脂質、HDLの質の評価法、トランスサイレチン（栄養マーカーの1つ）が蓄積する老人性全身性アミロイドーシスの心病変についてまとめていただきました。「治す」のセクションでは、薬物投与量の決定に重要なeGFRやクレアチニンクリアランスに内在する問題点、治療薬の開発で再び脚光を浴びているLp(a)、心血管イベントと関連の強い食後高血糖の評価法、カテーテル治療の術中評価における心エコーの意義についてご執筆いただきました。

ご執筆者の先生方は、いずれもそれぞれの分野のエキスパートです。本特集によって臨床検査についての理解が深まり、読者の日常診療に役立つことを願ってやみません。